

移転のお知らせ

相談支援事業所 らしんばんが、下記住所へ移転致しました。ご利用の際は間違えないようお越しください。

相談支援事業所 らしんばん

〒284 - 0027 四街道市栗山740
Tel/Fax 043 - 308 - 5808

活動休止のお知らせ

地域活動支援センター みのりは、利用する方が創作活動や生産活動を通して地域で自立して生活ができるように平成28年1月に開所しましたが、利用される方が少ないために、12月31日をもって休止させて頂くことになりました。地域活動支援センター みのりをご利用頂きました皆様方には、大変ご迷惑をおかけいたしますが、ご理解ご協力をお願い申し上げます。

ご出産おめでとうございます

宮城 かおりさん
男子誕生
松田 静華さん
男子誕生



退職のお知らせ

ありがとうございました。

〈青空協同組合〉
川上 寛子さん
〈ピース〉
野本 美沙子さん
〈ひまわり〉
富谷 結花さん
喜田 有里さん

新しい方が職員として加わりました

新入職員です。よろしくお願いします。



〈ひまわり〉 青柳 綱孝さん

初めまして、昨年9月から「ひまわり」の職員となりました青柳と申します。5か月ほど経ちましたが、職場では子供たちから教わる事が多々あり、学ぶ事が尽きない職場だと痛感しております。

子供達の為にも、自分自身の為にも精一杯、日々の努力を惜しまない様に取り組みたいと思います。宜しくお願い致します。

〈ピース〉 石橋 仁志さん

昨年9月末に入職しました石橋仁志（いしばしまさし）と言います。障がい者支援については経験が浅く、まだまだ分からない事が沢山あります。社会福祉の勉強をしつつ障がい者支援も行いますので難しい面もありますが、経験を積み、利用者が自分らしい生活を送れるように支援していきたいと思っております。

〈青空協同組合〉 茂木 邦子さん

以前高齢施設で働いていたのですが、今回、違った形で人と関わる仕事ができたらと障害施設での仕事を考え、みのり福祉会でお仕事をさせて頂くこととなりました。利用者される方と作業させて頂きながらこれから色々な事を学んでいきたいと思っております。

みのり通信

第15号

発行 平成29年2月20日
特定非営利活動法人みのり福祉会
〒285-0862
千葉県佐倉市新臼井田8-3
043-462-6424

ごあいさつ

会報のバックナンバーは、ホームページ <<http://minorit294.ec-net.jp/>>に掲載してあります。

理事長 立田 芳弘

新しい年を迎えて



新しい年が始まりました。会員の皆様におかれましては、いかがお過ごしでしょうか。

新年におきましても旧年に増してご支援ご協力をお願い申し上げます。

おかげ様でみのり福祉会は、グループホーム4カ所(サテライト型を含む)、就労支援事業所2カ所(ピース・青空協同組合)、放課後等デイサービス・児童発達支援事業所2カ所(ひまわり・くろーばー)、相談支援事業所1カ所(らしんばん)、地域活動支援センターⅢ型事業所1カ所(みのり)を運営することができました。

昨年を振り返りますと、日本全国いろいろな「まさか」がありました。

熊本地震、鳥取地震、豊洲市場の汚染、SMAPの解散、トランプ政権の誕生?等...

みのり福祉会もいろいろな「まさか」がありました。

1つ目は、職員の退職が急増したことです。法人としては、「辞めない職員づくり」をモットーにやって来

ましたが、今年は7名の退職者がありました。新天地を求めて、条件面でよい事業所、結婚健康等を理由に、「まさか」という職員の方も辞めてしまいました。

2つ目は、これも人事のことですが、職員の出産ラッシュです。これから年金をもらう方(私を含めて)や、国の少子化現象に歯止めをかけることは喜ばしいことですが...等法人にとって、人員確保は大変重要な仕事です。

3つ目は、1月に開所した地域活動支援センターⅢ型事業所の休止です。地域の障害のある方のひきこもり対策、余暇支援の充実をめざして開所しましたが、残念ながら利用する方が増えずやむを得ず休止することになりました。その他にもいろいろな「まさか」がありました。新年早々、暗い話になってしまいましたが、今年は何より健康で元気に過ごすことを心がけて、うれしい「まさか」を増やしていければと考えています。

今回のテーマは前回に引き続き「最近思うこと」(後半)です。職員がどんなことを感じ、どんな想いを抱いているか感じとっていただければと思います。

今年も幸多い年でありますように!!

副理事長 川嶋 司朗

最近思うこと



みなさん、明けましておめでとうございます。

2016年もあっけなく幕を閉じ、気づけば2017年が始まっています。寒くもなく、雨も降ることなく、穏やかな幕開けを勝手に喜んでおりました。

恒例のみのり通信の「お題目」。少し前にも、このタイトルがあったような気もしますが、知らなかったことにしたいと思います。

「最近思うこと」は、歳のせい、色々あります。おかげさま?で、「色恋」に悩むことはなくなりましたが、代わりに「健康」に悩まされることが増えたように思います。血液ドーロドロ♪な事も最近考えます。「川嶋さん、まずいなーこんな数値じゃー」と主治医に言われ、その場は悩むが、3日で忘れる...鶏のような記憶力。あー困ったものです。この前、ジョージ・マイケルと言う、私の青春を支えたミュージシャンが亡くなりました。あーそんな歳になってしまった...とも、思

いました。みのり福祉会も今年の2月で、9年目を迎えます。時間が経った事もそうですが、新しいことに取り組むことが少なくなったことで、マンネリ化を招いているようにも思います。チームワークが薄れ、自分のことばかりを考えると、負のループに陥っているところも感じます。私自身の油断が、それを招いているのかもしれませんが、今年は現場を大切に、初心を取り戻す日々を送りたいと考えています。

脈絡のないダラダラな「今思うこと」でしたが、最後にもう一つ。「生まれれば終わる、終わったら何かが始まる」「1人はみんなのために、みんなは1人のためにいる」今時、熱くなってどうするの?何て言われる事も多いですが、何もせずに失敗を怖がっているならば、何かして失敗を成功の元に変える方が、自分のためになる。そんな風に思って、障害者支援に取り組む人を増やしたい。「害」の字を「がい」と読み替える事もあります。それはこちらが「害」と認識しているから読み替えているのかなと思えました。書かれている方は、どう思うのか...そんな事も考えていることがありました。

みなさん、本年もどうぞよろしくお願い致します。みんなと作業して、血液をサラサラにするぞー♪



< ピース職員 >

神野 孝浩

最近思うことというか、常に思っていることがある。福祉のしごととは何?何をやる?ということである。様々な福祉の仕事はある。その様々な仕事によっても違うかもしれない。一つ共通と思えるのは、直接的、間接的に人と関わる仕事、人に対して……をする仕事。それは当たり前?といえばその通りと誰しもが言うかもしれない。しかしそれだけ?とってしまう自分がある。「福祉」の意味を調べてみると、「しあわせ」や「ゆたかさ」を意味する言葉であり、すべての市民に最低限の幸福と社会的援助を提供するという理念を指す。とのことである。英語では「welfare(ウェルフェア)」でよりよく生きるとのこと。意味の中で「すべての市民に」のところに着目してみると、自分自身もということになる。また英語の意味も「よりよく生きる」は自分自身もよりよく生きるべき一人であるのではないだろうか?であるならば、福祉のしごとに携わるということは、直接的、間接的に人に対して〇〇〇をする事で自分自身も含めたすべての人の「しあわせ」「ゆたかさ」を目指すものであると言えるのではと思う日々であり、その事を常に思い「福祉のしごと」に従事している。



野本 美沙子

最近、思うことは、料理についてです。料理が出来なかった私ですが、法人内での交換研修を行った時にグループホームに行き食事を作ったり、ピースで買った野菜で料理をしたりすることが出来て、少しずつ料理が出来ているということを感じています。

最近、料理を始めるきっかけになっていると思っています。しかし、まだ手の込んだ料理は、出来ていません。これから基礎が出来て来ると料理も手が込んで上手くなるのだと感じています。

以前にピースで、赤カブの酢漬けを作った時に利用者さんが「美味しい!」と言ってくれたことがありました。そのように言ってもらえると嬉しいですし、また作りたいという思いが出て来ます。

ピースでは、昼食時に味噌汁やサラダなど、利用者さんに提供することがあるので、こういう機会も有効に使い、料理を行えたらいいと感じています。

しかし、家に帰ってしまうとやはり、手を抜いて作らない日も多々あります。まずは、お弁当のおかずからなど、炒め物やサラダ等、簡単な料理から始めたいと思っています。

料理は、女性と生まれたからこそ、やっぱり出来た方がいいと思います。ピースにいて、野菜や卵を買える環境だからこそ、今出来るのでこの機会を使って出来ることから始めていきたいと感じています。

石橋 仁志

ピースに来て初めて「原木椎茸」を知りました。成長の経過を見ると人の成長と同じように感じる事があります。太くて立派な原木だけど思ったほど椎茸が出てこなかったり、細くて貧

相だけどたくさん出ていたりします。椎茸も大きくて形の良いものもあれば、いびつだったり小さかったり、以外なところから生えていたりします。でも収穫して食べてみると、どれも歯ごたえ、旨みと格別においしいのです。もっと多くの人に知ってもらえる機会が増えればいいなと思うとともに、利用者の「旨み」を引き出せればと思います。

< 青空協同組合職員 >

浅野 亨

またまた、野球の話ですが…。巨人が弱いのは、なぜか。先日真剣に考えてみた。自分なりの答えは、助っ人外国人の期待外れが一番の原因。巨人の歴代助っ人の中で『活躍したね』と記憶に残っているのは、クロマティぐらいではないか。ガルベス、ガリクソン、コトー、マルチネス、モスピーこのあたりは、そこそこ活躍しているものの記憶にあまりない方が多いでしょう。

他球団の助っ人外国人を見ると、過去、現在においても当たりが多く、ビシエド、エルドレット、ジョンソン、バンデンバーク、過去においても、ハウエル、デストラーデ、ホーナー、フランコ、イースラー、ソレイタ、モッカ、Tローズ、ローズ等まだまだ名前が挙がってくる。巨人の海外スカウトは何をしてるんだらうと思ってしまう。助っ人外国人に頼りすぎでは、いけない。ただ助っ人の枠はどのチームも平等にあるし、その当たり外れでチームの順位が左右されているのも事実。クロマティとまでは言わないが、助っ人と呼べる助っ人を久しぶりに見てみたい。ちなみに今年の巨人で開幕からずっと4番を打っている助っ人外国

ありません!

ただ、私も子どもたちを妊娠中は、名前の事を一日中考えてた時もありました。その名前をキラキラネーム、DQNネームだと思ってる人がいたら悲しいなと思いました。

子どもの幸せを願わない親はいないと思います。どんな名前でも親から子どもへの生まれて初めてのプレゼントですよね。皆さんはどう思いますか?

< ほーむ職員 >

大島 芳江

年のせいか「最近の若い人たちは」とつい言葉に出てしまいがちです。昔は親や兄に言われた「使った物は元に戻して置きなさい」「停電になってもどこに有るか解る様にして置きなさい」「はいは一回で良い!」等と、いろいろ思い出します。

今、自分が同じ様な事を言っている事に改めて年齢を感じます。昔は「ああだった、こうだった」と、孫達に言っても時代が違うと反対に叱られてしまいます。

一言、言うとお返事も返って来ます。反抗期真っただ中の孫達ですが、私がしょぼんとしていると先日「おばあちゃんはずごいね、何時でも元気でその年になっても自動車を運転して仕事もしているし、ごはんもいつもおいしいよ、友達に自慢出来るよ」と慰めてくれました。つつい可愛くなって抱きしめたら「うざい、きもい」と言われてしまいました。

最近の言葉は短縮語が多くて、理解出来ない時が多いです。言葉は大切です。目上の人に対して尊敬の気持ちだけは持っていてほしい。うるさいと言われてもめげず折にふれ、教えて行きたいと思えます。

私自身も、言葉に気を付けて、



荒木理恵 森 政雄
菊地久子 瀬浪真子
菅原輝代 大島芳江 高橋和也

良いおばあちゃんにならなくて、と思います。

そして、大人になった時、小言を言われたことを懐かしく思い出してほしいと思います。

荒木 理恵

月日の移り変わりが早い! ついこの間みのり通信が発行したと思ったら、もう次である。ありがたいこと?に1日、1週間、1か月、1年…と何をしてたのか分からないぐらい忙しい。ただ、それで充実しているのかといえば、また別問題のような気がする。日々満足のいく生活などなかなかないと思うが、少しずつでも満足(成長)していきたいと考える。

森 政雄

体を動かすことが大好きで、ウォーキング、サイクリング、登山など外出するチャンスがあれば積極的に参加してきた。

これからもぜひ続けて行きたいと考えている。考えてはいるのだが……

昨年、年相応に体力が衰え、うかつにも転んだ拍子に生まれて初めての足の骨折を体験した。

1か月間動かないと関節という関節が「サボル」ことを憶えてしまい、いくらほっぱをかけても動こうとしない。動こうとしない関節をむりやり動かすとゴキゴキと不満をもらし、痛みが

走る始末。おかげで、大好きなエアロスタジオでのエクササイズでも、すぐにねをあげそうになってしまった。「無理しないでね」の掛け声がむなし

い。職場でも「無理しないでね」の掛け声が多くなったような気がする。「まだまだ」と反発したいのだが、そろそろわきまある「親しみやすいお兄さん?」、「なんでも気軽に頼めるおじさん!」になろうかなと思うこのごろである。

どうぞ皆さんのお役にたつことがあれば、気軽に声をかけてください。腰だけはまだまだ軽いので……

< らしんばん職員 >

前川 優香

私の休日はだいたい何もせず、部屋から一歩も出ずに寝て終わる日もあれば…テレビを観ながら寝転がって終わる日もあればと…だらだら時間を過ごしています。最近、写真を撮る事が趣味という友達と一緒にいろいろなスポットに出掛け、とても充実した気分になりました。

みんな素敵な休日を過ごしているな~ 私も休日を上手に過ごせる人になりたいなあ~と思いました。



川島玲奈 前川優香



押木久美子 齊藤秀美 石橋仁志 神野孝浩
高橋榮子



この職員みたくなりたいたいな。そう思った事を覚えています。そこから、20歳で他の法人で働くこととなりました。こうなりたいたいなあの時見ていた職員に、自分もたくさん経験させてもらおう中になっていった気がします。自分の支援力の無さに悔し涙することもありました。毎日のように、業務が終わると先輩にそれはもう熱く(しつこく?)相談することもありました。支援の方向性について熱く激論することもありました。それがあったからこそ、今も繋がっている大切な出会いもたくさんありました。さて、今の自分はどうか。どこか、年齢や経験で物事を冷静に受け止めてしまう自分もいます。そうでなければいけない部分もあります。熱くなることがかっこ悪いような気がして、かっこつけてる自分もいた気がします。“勇気は一瞬、後悔は一生”何かで読んだことがあります。何かをするときには勇気がいるものです。でもそれは一瞬のこと。あの時、こんな職員になりたいと思えた自分の感情を忘れず、熱さの中にも時に冷静に、そして常に朗らかにいたいなと思いました。

富彌 真奈美

皆さんご存知の通り私はジェフ千葉のサポーターです。時間とお金があればどこへでもジェフの試合を見に行きます。そんな私が最近試合を見ていて、選手はサッカーを楽しんでいるのかなー。と思うことがありました。今までは何でもいから勝てばいいと思って応援していましたが、最近は「勝っても負け

ても楽しんでサッカーをしている選手を応援したい」と思うようになりました。選手が楽しんで自分たちのサッカーをしていると分かるときは、悔しいですが負けても充実感があります。そして“楽しむ”という所では仕事も同じだと感じました。楽しいだけでは仕事にはなりません。少しでも楽しいと感じなければ仕事をするのがどんどん嫌になっていくのだろうとも思っています。私は支援している中で子ども達と関わるのがとても楽しいです。これから子ども達にも楽しいと感じてもらえるような活動をし、自分も一緒に楽しんでいこうと思います。

田畑 章子

最近思うこと…なんでしょうね?曜日によって思うことが、時間によって思うことが違うので、これ!!っモノが無いんですよ。朝起きた瞬間に、「晩ごはん何にしよう…」、洗濯物干しながら、「あれ?携帯どこに置いたっけ?」とか、耕運機を掛けながらみんなの就職先を考えたり・・・動きとまっていることが合致してないことが多すぎ、いろいろなことを思っています。もし、自分の思っていることが周囲の方々にバレバレだったら・・・呆れられてしまうでしょうね、自分の周りに特殊な能力を持っている人がいなくて良かったとも思っています。

思っているだけでは伝わらない、だから『人』は言葉や態度で思っていることを伝えるんですよ、思わば思われるという言葉は正しいことだと思っています。相手をきちんと思っていることを伝えていければと思っています。

清水 こずえ

いわゆるキラキラネームが流行ったのって10年くらい前ですかね?

今はキラキラネーム、DQNネームという言葉が出てきて数年前よりは名付けが大人しくなったような気がすると思いつつ、やっぱり結構目にしたり耳にしたりしますよね。最近ふと思う事があるんです。

よく『そんな名前にしておっさんおばちゃんになった時、恥ずかしいんじゃない??』という意見がありますが、今私達が付けられている名前も昔はいわゆるDQNネームだったのかな・・・って。

うまく説明できないんですが、キラキラネームを名付けようとする時、「〇〇って名前、年取って恥ずかしいよ!」という意見がありますが、すでにその世代は〇〇という名前はごく普通だよ、という事になっていないかなと。女性で例えさせてもらいますが、昔って動物の名前(ツルさんカメさん)や、きんさんぎんさんという名前が普通でしたよね。そこに〇〇子という名前が多くなり、そして〇〇り、〇〇か、〇〇みとかという名前が一般的になってますよね。つまり、私たちの世代では普通とされている名前って昔はキラキラネームみたいなものだったのかなーってふと思ってしまいました。

私の友人の子どもはみつこ、という名前です。いい名前だと思うのですが、うーん、これはこれでちょっと古風かな、と。

でも数十年前はごく普通の名前だっただろうに、なぜ古風だと思うんだらう?と考えたら上の疑問が出てきてしまいました。

決してキラキラネーム、DQNネームを推奨している訳では



人、ギャレットは5月2日に2軍に降格しました(笑)

高橋 良彰

休日、寝グセアタマのままバイクを洗車しながら、ふと思いつく。当時、高校2年生の6月15日、学校に内緒で原チャリの免許を取りに行った。自分のバイクを手に入れるまで待ちきれず、じいちゃんのスーパーカブを勝手に乗って家から数十メートルのT字路で曲がり切れずにすっ転んだ。それがバイク人生のスタートだった。手に入れたバイクでよく走りよく転んだ。ガソリンと修理にバイト代を全て注ぎ込んだ。バイクに彼女を乗せて海まで、に憧れたが結局叶わず学生時代は過ぎた。社会人になっても乗り続けたが相変わらず何度も事故や転倒を繰り返した。おかげで手足のあちこちに転倒傷、両ヒザと左肩には事故の後遺症が残ってる。ああオレ死んだ、と覚悟した時には走馬灯が見えた。悪天候の中走った思い出もたくさんある。雪の中、下り坂で転倒して横転したバイクの上に乗って滑り降りたことがあった。夕方、カップを着ずに猛烈な土砂降りの中を走った時、走り続ければそのうち乾くだろうと思って一晩中走ったが朝になってもビショビショ、結局風邪ひいて寝込んでしまったこともある。雨と霧で



浅野 亨 高橋良彰
石原善彦 須佐美正則
関 牧子 新山悠里 茂木邦子

真っ暗な峠道を、トラックに轢かれそうになりながら走り続け、疲れてカップのまま震えながら野宿した。寒さだけじゃない。観測史上最も暑い日に乗った時は、強烈な日射しと気温で気絶しそうになり、気付いたらセンターラインを越えていた、なんてこともあった。陽炎が立ち昇る人気の無い道を、パンクしたバイクを何kmも押し歩いたことだってある。さて、酷い目にあった話は幾らでもあるが、もちろん楽しい思い出もたくさんある。しかし、ふと思いつくのは決まってこんな思い出ばかりだ。じゃあ酷い目にあつて鬱々とした気分になるかと言われればそうでもない。嫌なことばかり覚えてるって訳じゃない。自分が大切にしているのは、どんな目にあつても最終的には無事家に帰ってきたっていう達成感、なんだと思う。多分ね。

長戸 由香里

1年程前から自分の親との同居がスタートし、8月からは義理の母との同居も始まりましたが、最近はずいぶん楽しくしています。

つくづく同居は大変だなと思っています。病院の付き添いがあるは家の掃除や庭の手入れ・竹山の整備。

どれも半端な感じになりうまくいきません。仕事でも家でも料理など同じことを繰り返してるので、単調な物になっている気がします。

宮城 かおり

最近思う事と言えば…先日、息子の保育参加に行ってきました。保育所で、色々なお友達に刺激を受け、色々な事に興味を持ち挑戦する息子。「こんな事出来るの!?!」「こんな事が出来るようになった!」という成長に驚くと同時に、家では危ないからとい

て興味を持った遊具などで遊ばせていなかったと気づき反省する日でもありました。

子どもの成長は早く、あっという間に大きくなってしまいます。仕事で休日しかたくさん一緒に遊んであげられない息子と、もっとたくさん遊んでなんでも挑戦させ、自分で出来たという喜びと一緒に味わえたらなと強く思うようになりました。

新山 悠里

昨年の一月に祖父が亡くなり、周りの人の死についてよく考えるようになりました。

物心がついてはじめて身近な人が亡くなり、その当時「死ぬ」ということをまじめに考えたことのない私は「祖父にもう会えない」という実感がなかなかわきまませんでした。

それから少したち、テレビで人や動物が亡くなる映像が流れるとなぜか祖父の事を思いだし涙が出てきました。そこではじめてもう会うことも、話すことも出来ないのだなと実感し、とても悲しくなりました。これから私は、祖母やペットの犬たち等大好きな人々をたくさん見送らなければならないと思います。そのことを思うと今から涙が出てきますが、人の死に慣れることはないと思うのでそのたびにゆっくり考え乗り越えていけたらなと思っています。

石原 善彦

一人の支援者としてこの福祉の職業に就いたが、私みたいないい加減な人生を歩んで来た者がはたして支援者と呼べるのだろうか?

私の行動や意見、言動が正しいのか、利用者にとって本当にそれらが正しかったのか、実際に役に立っているのかとても不安であり悩めるところである。



正しい答えがないまま曖昧で良いのだろうか？

支援者としての自分に自信が持てる日は来るのだろうか…。

茂木 邦子

最近高齢ドライバーの運転による交通事故が多い。交通の便が悪いとの理由から運転せざるおえない状況にある。高齢者が運転をしないでも生活するうえで困らない環境を整えることを早急に考える必要があるのではないか。

関口 綾子

みのり福祉会で産休を取得させていただき、平成26年10月に長女を出産し育休取得後、平成28年4月より復帰致しました。皆様方には本当に感謝しております。

育休中は、娘と24時間ずーっと一緒でした。誰かとこんなにも一緒にいて終始ベタベタしているなんて、自分が子どもの時に母親と過ごしていた時以来では…？もちろん、かわいい♡と思うことはわかりです！が、2歳2か月の今は「コノヤロー」と思ってしまうこともしばしば。4月から娘は保育園、私は仕事と家事育児を両立する生活になりました。

世の中の働いているママさん、尊敬します！！朝起きてから夜寝るまで(寝てる時も)本当に忙しくバタバタと過ぎていきます。

でも、娘と離れている時間があるからこそ「コノヤロー」と思う時間が減り「かわいい♡」と思う時間が増えました。これは働いているからこそ持てる余裕ではないでしょうか。

毎日目まぐるしく過ぎていきますが、今後も心の余裕を持ちながら仕事と家事育児を両立していきたいと思えます。もうすぐイヤイヤ期に突入しそうなので、心の余裕が持てるか…心配です。

< ひまわり職員 >

三好 優哉

最近私が思う事は、「ゆとり教育」に関してです。あるおじさんに、「最近の若者は～、ゆとり世代は駄目だ」と言われました。その話を聞く度に、私はムカッとします。私達は好きでゆとり教育を受けたのではなく、私達より上の方が、詰め込み授業だと想像力が膨らまないなどの理由で、ゆとり教育にしたようですが、結論としてゆとり教育のデータデータがうまくとれず失敗になったという話を聞きます。だからといってゆとり教育は駄目だと言われるのは、私は嫌いですし、全員が全員駄目なわけではないと思えます。見た目で判断するのではなく、まず中見を知ってもらいたいと思いました。

今後、私達は子供達を成長させる為に、教育に関しても考えていかななくてはいけないと最近思いました。

畑山 雅子

私の父は75歳で5.6年前から「人工透析」のMA X治療を受け、その他でも入退院を繰り返している。若い頃は仕事人間で家庭の事は母親に任せきりで、仕事を言い訳にしている人だった。娘として物心ついてからは、密に接した事はなく、進路、就職、結婚に意見された事



伊藤 郁 三好優哉 青柳綱孝 猪木健治
畑山雅子 越川千耀 島田生成

もなかった。なので、思春期特有の「お父さん嫌い、汚い、洗濯物は別にして」という感情は一切持たなかった。それだけ私にとって父とのつながりは薄かったのだ。ところが、私が母親になり孫ができたとたん父が一変し毎週のように家に来ては孫と遊び、旅行にも連れて行ってくれた。私や兄に出来なかった事を埋めるかのような感覚。しかし、それもある事から一切なくなり私も父とは会わなくなった。時折、母からくる電話は父への愚痴ばかりで、更に父との距離は広がった。そんな父が今の状態になり数年経ってしまった。最近、母から「相当弱ってきたから、そんなに長くはないと思う。」と言われ、初めて考えてみた。確かに父がした事は、その後の母の苦勞と悲しみを思うと許される事ではない。しかしそれでもまだ夫婦として過ごしているのであれば、それは2人の問題なのだ。私にとっては父の存在なくして私はいない。娘時代に不自由なく生活できたのも父がいたから以外にない。

3人目を授かった時、母に反対され悩んだ時の父からの言葉で救われた事…このまま会わずに送ってしまうのか？「会いに行こう」でも、もう何年も会っていないのにいわゆる「虫の知らせ」になったらどうしよう…。勇気もなくタイミングもつかめなかった。モヤモヤしていた時のGW中、娘の部活が急遽休みになった事が私の背中を押した。自分に迷う隙をあてず、ほとんどいきおいで「習志野に行くから電話して。」娘はきょとんとしながらも電話をした。何年かぶりの父親…。「突然来るっていうから何かと思った。元気か？お前あまり無理するなよ。」誰に言われるよりも一番素直に言葉を受け止めた。何年も会わず、許せずにいたの



に…。いきついた答えはやはり父娘という事。たくさん触れ合

い、思い出は無かったけど、「血」のつながりは間違いなくある。そういえば最近読み終えた本にもつながれていく「血」が書かれていた。いつか来る父との別れはそうそう悲しくはないのかも？なんて勝手に思う事になっている。

猪木 健治

昨日、新幹線に乗る機会があった。ひさしぶりにウィークデイに乗ったが、あまりに静かなので少し違和感を覚えた。周りの乗客が皆一様にスマートフォン、タブレット、パソコンを動作している。自分だけが取り残されている感じがした。少し悪いか、と思いつつ、通路を歩き来する時に覗かせてもらった。…黙って。

ゲーム、新聞、メール等、多種多様であった。同僚や友人、恋人同士や親子。全ての人に共通しているのは、無言と言う暗黙の了解であった。それなりのルールが今の状態の中で保たれている。その反面、楽しそうな声が前の車両から聞こえてくる。どうもフランス人らしき集団が笑顔で会話を楽しんでいる様子であった。弾んでいる。自分の席に戻り、書籍を手にとったが、眠くなる一方であった。やはり、2時間45分の長丁場をひとりで乗り切るのは苦難である。今の「スマート時代」には、「黒電話の男」は自分をコントロールするのが難しい。

所用を終え、家に帰る。自分の出番がやってきた。デジタルから解放されたアナログが始まる。唯一の対戦者である家内の登場である。いろんな話が弾む。そして意見交換が、お互いのディベートと

なる。ストレスの発散とある種の優越感を求め、さらに白熱する。今日一日の中で、夫婦が一つの問題、課題について、全く遠慮なく、相手を打ちのめそうとしている。

その後、風呂に入り、上がってゆっくりしていると、すべて終わっている。今、会話、討議、コミュニケーションが重要な仕事をさせていただいている。これからも、夫婦のディベートは継続していく。更なる自己研鑽と、夫婦円満のためにも。

青柳 綱孝

9月からひまわりの職員となり私は自宅から職場まで電車通勤をしています。

自家用車での通勤とは異なり通勤途中では様々な人達を目にします。その中、スマートフォンの普及の高さには驚かされます。

電車の待ち時間、車内での過ごし方、ほとんどの人が画面を見ている。ひと昔前では満員電車の中で小さく新聞を折りたたんで器用に記事を読む姿をよく見かけましたが、最近では殆ど目にする事はありません。

また車内のシート一列に座る乗客全員がスマートフォンに夢中になっている状況は珍しいことではなく、この光景には不思議な気持ちになりました。

ある日、私用に電車を利用した際、車窓からきれいな虹が見えました。陽が傾きかけた街並みにかかる虹と空の風景に少なからず見入ってしまいました。ところが車内でこの景色に気付く人は無く黙々と手元の画面を見ているばかりでした。

日常生活の利便性を向上させることは私も肯定的ですが、それだけにとらわれると知らずのうちに見えなくなるもの、また感じなくなるものも比例して増えていくような気がします。快

適な生活を取り入れつつ感受性も忘れないようにしたいと思います。

< くろーばー職員 >

愛甲 夏美

“最近思うこと”と“最近気になること”を勘違いしていた私、こうしてまた原稿を書き直すこととなりました。さて、最近思うこと、それは“熱くなる機会が減ったな”です。そもそも、今の私が何故この職業に就いたのかというと、きっかけは佐倉市で行われていた夏休みのボランティア体験講座です。中学2年の頃でした。ある施設で、帰りがけに利用者の女性に“また来てね”と言われました。なんとなく約束のようになってしまった事が気になり、個人でボランティアに行き、そこから何度か足を運ばせてもらうようになりました。行く度に思う事は、そこで働く職員がいつも楽しそうに見えました。作業中も利用者と一緒に会話をし、いつも和気あいあいとしてました。夏祭りでも朝からの準備で汗だくな職員、でも何だか生き生きしている。とにかく職員の団結力や熱いものがそこにはありました。当時、中学3年生？あまりに昔のこと過ぎて覚えてはいませんが、自分が楽しいと思って動いているから、相手も楽しいと思ってくれる、こ



田辺幸子 佐藤 隆 田畑章子
清水こずえ 富彌真奈美 田村美奈子 愛甲夏美